

高槻市交通バリアフリー基本構想策定後の当事者連携に基づく継続的な取組み事例*
 A case after making up the Barrier-free Transportation Master Plan
 by partnership in Takatsuki city*

九後順子**
 Junko KUGO**

1. はじめに

交通バリアフリー法施行以降、各地で交通バリアフリー基本構想の策定が進められてきた。策定が行われた地域では移動円滑化の取組みが一過性に終わることのないよう、行政、当事者、事業者が連携した継続的な改善の取組みが求められている。しかし、継続的な改善を当事者連携のもと、どのように進めていけばよいのかについては、実施事例も少なく、地域ごとに模索している状況である。

本論では、平成15年5月に「高槻市交通バリアフリー基本構想」（以下「基本構想」という）を策定した高槻市の策定後1年間の取組みを事例として、実施内容・プロセスを整理し、今後の問題・課題について考察する。

表-1 高槻市交通バリアフリー基本構想の概要

高槻市の基礎データ	人口 約36万人（平成14年） 老年人口の割合 14.4% 障害者数の割合 3.1% 旅客施設数 5駅 （いずれも利用者数5千人以上）
重点整備地区及び鉄道駅名	高槻周辺地区156ha （JR高槻駅，阪急高槻市駅） 富田周辺地区126ha （JR摂津富田駅，阪急富田駅） 上牧周辺地区19ha （阪急上牧駅）

2. 基本構想策定後1年間の取組み

高槻市では、基本構想策定後の取組みとして、基本構想内容の広報、バリアフリーマップ作成、継

続的な協議機関の設立、特定事業計画の策定など整備事業メニューの推進を行った。以下にその実施内容と推進プロセスを整理する。

(1) 基本構想内容の広報

基本構想内容を広く市民に周知するため、ホームページでの全文掲載、市民向けシンポジウムの開催、高槻CATV番組での広報が実施された（表-2）。

高槻CATV番組での広報では、市担当者が駅や整備予定道路など現地を番組レポーターと一緒に歩き、今後の整備内容を解説した。番組は約2週間にわたり、1日2回程度放送された。

表-2 基本構想内容の広報

市ホームページ	掲載時期	平成15年6月～現在
	掲載内容	基本構想全文
市民向けシンポジウム	開催時期	平成15年11月18日
	聴講対象	一般市民、関係団体等
	プログラム	・基本構想概要説明 ・高槻市のバリアフリーの問題・課題について パネルディスカッション ・会場からの質疑応答
高槻CATV番組での放送	放送時期	平成15年10月
	番組内容	駅や道路などの今後の整備内容を現地で解説

(2) 高槻周辺お出かけマップの作成

高槻周辺地区を対象に、障害当事者を調査員として、「高槻周辺お出かけマップ」（以下「マップ」という）を作成した（表-3）。

マップ作成にあたっては、当事者参画により進めるだけでなく、今後、継続的なマップ改善がしやすいよう配慮しながら調査を進めた。その理由は、基本構想策定後さまざまな場所で整備事業メニューが予定され、まちの状況が変わってゆくため、単に

*キーワード: 交通バリアフリー, 住民参加, 地域行政の役割
 **正員, (財)千里国際情報事業財団
 (大阪市北区芝田一丁目16番1号,
 TEL:06-6373-5345, E-mail:kugo@senri-i.or.jp)

現時点のマップを作成しただけでは、すぐに掲載情報が陳腐化することが予想されたからである。

表-3 高槻周辺お出かけマップ作成調査の概要

作成時期	平成 15 年 11 月～平成 16 年 4 月
作成方針	当事者参画によるマップ作成 継続的なマップ改善に配慮
対象地区	高槻周辺地区(重点整備地区内)
調査対象	鉄道駅(JR高槻駅、阪急高槻市駅) 駅前広場・駅周辺 主要建物(商業施設、公共施設、 病院、劇場、福祉施設など) 主な経路(道路・歩道・信号機)
成果物	お出かけマップ、点字地図、 ホームページ掲載用データ、 調査結果資料(事務局用)

継続的なマップ改善がしやすいように配慮した点は以下のとおりである。

< 調査体制 >

今後のマップの改善にも活躍してもらえる人材育成を意図しながら、調査体制づくりを行った。

大阪府の緊急地域雇用制度により、障害者を含む失業者(計6名)を調査員とした。6名は、現地調査を遂行できる程度の体力と自ら学ぶ熱意を有する方、今後、地元の障害者の声を代弁するキーマンとして継続的な活動を期待できる方を中心に参画いただいた。結果として、リーダー1名、サブリーダー1名は障害者の子に持つ親、調査員4名は電動車椅子利用者、視覚障害者を含む障害当事者となった。コンサルタント担当者がその調査員に対して、調査方法の説明、指導、監督を行いながら、調査を進めていった。活動拠点として市役所内の会議室を継続的に利用した。

< 調査内容 >

次項で述べる継続的な協議機関の場に対して、まちの改善点や当事者の意見などを適切にとりまとめられる人材育成を意図して、調査対象項目は、マップ掲載事項だけでなく、建物、駅、駅前広場、道路、信号等の詳細な状況についても調査し、調査結果としてまとめてもらった。具体的には、移動円滑化基準、移動円滑化ガイドライン、大阪府福祉のまちづくり整備基準などの各種技術基準についてレクチャーし、学んでもらい、その項目を現地で自らチェックし、デジカメやエクセル表に整理してもらった。

< 調査結果 >

現地調査結果資料(チェック表、地図、建物配置図、写真など)は、今後も参照できるよう、参考資料としてファイルにまとめ、市と障害者団体の各々に保管してもらった。

< マップ形状・掲載内容 >

複写・増刷・更新しやすいマップ形状としてプリンターで出力しやすいA4サイズの小冊子(見開きでA3サイズの地図)を基本とした。また、印刷物だけでなく、点字地図、ホームページ掲載用データも作成した。

掲載内容については、現地調査結果の多岐にわたる詳細な内容のうち、限られた紙面スペースに何を掲載するかについて、調査員、市担当者、コンサルタント担当者が協議しながら、案をまとめていった。

(3) 継続的な協議機関の設立

継続的な協議機関として、平成16年2月24日に「高槻市交通バリアフリー基本構想継続協議会」が設立された。構成員は市、事業者、当事者等を中心とするメンバーである(表-4)。

今後、年1回を目途に、協議会を開催し、整備事業メニューなどバリアフリー化の進捗状況の報告・確認、当事者との意見交換の場としていく。例えば第1回では、(2)のお出かけマップ作成のための現地調査結果をふまえ、当事者から具体的な意見・改善要望などが寄せられた。

表-4 高槻市交通バリアフリー基本構想継続協議会概要

会長	増田典行
副会長	山田義昭
アドバイザー	三星昭宏(近畿大学理工学部教授) 中林浩 (平安女学院大学生生活環境学部教授)
委員	鉄道事業者、バス事業者、道路管理者、 公安委員会、府、市、商工関係者、 高齢者団体代表、障害者団体代表
設立	平成16年2月
事務局	建設部道路河川室

(4) 整備事業メニューの推進状況

基本構想に記載された整備事業メニューについては、鉄道事業者、道路管理者、公安など実施主体ごとに施策を推進していった。

JR 高槻駅のエレベーター・多機能トイレ設置、駅北再開発事業の駅前広場整備など、従来から準備が進められていた事業メニューが着実に進捗し、まちのバリアフリー化が市民の目にわかりやすい形で実現されている。また、心のバリアフリーについては市が主導して取り組んでいる。

表-5 実施・着手した主な整備事業メニュー等

鉄道駅と駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR 高槻駅の大規模改修、駅北再開発事業の駅前広場整備、従来から準備が進められていた事業メニューが着実に進捗し、完成しつつある。 ・ 阪急上牧駅前区画整理事業も進捗中。
特定経路など道路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誘導ブロック設置、舗装面の改善、柵設置など既存補修で対応できるメニューについては迅速に実施されている。 ・ 特定経路の整備、歩道の新設・拡幅などについては適宜計画案作成中。
信号等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音響装置の設置が適宜実施されている。
バス事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低床車両の導入が適宜実施されている。
地区共通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放置自転車の撤去、商品・看板のはみ出しに対する指導などが実施されている。
心のバリアフリー	<ul style="list-style-type: none"> ・ バリアフリーマップの作成、一般への広報・啓発など実施されている。 ・ 継続協議会の設置が行われた。

一方、長期的なまちづくりの推進が必要な課題（幅員の狭い歩車未分離道路のある駅前など）、地域交通の視点から総合検討が必要な課題（福祉施設へのモビリティの確保など）、市民との連携が必要な課題（放置自転車問題など）については、実施に向けての糸口がつかみにくいものが多く、継続的な課題となっている。

表-6 継続検討が必要な主な課題

長期的なまちづくり	阪急高槻市駅南側の周辺整備 阪急富田駅の周辺整備
地域交通	福祉施設等へのモビリティの確保
市民連携	放置自転車対策

3. 実施結果についての考察

高槻市の基本構想策定後1年間の取組みをふりかえり、今後の問題・課題についてとりまとめる。

全体としては交通バリアフリーの推進に積極的に取り組んでいる自治体のひとつではないかと考えるが、その中で様々な課題も散見されている。

（1）まちのバリアフリー化は進んだか

基本構想策定直後の1年間に、長年の市民の要望であったJR高槻駅のエレベーター・多機能トイレなどが竣工したことは、市民や当事者の目に「わかりやすい成果」として認識され、歓迎されている。しかし、これは従来より準備がすすめられてきた事業がタイムリーに実現されたという要因が大きい。

特定経路の整備など、基本構想策定を通じて新たに策定された整備事業メニューの推進については、引き続き、各事業主体が積極的に取り組むとともに、継続的な協議会にて進捗状況と成果を確認していく必要がある。

（2）当事者との連携は進んだか

バリアフリーマップ作成を通じて、障害者団体との連携はさらに進んだ。調査員となった6名の方々はいずれも自ら学ぶ熱意を有し、現地調査実施を通じて、各々スキルアップを図ることができた（具体的には、各種技術基準の知識取得、デジカメやパソコン操作等のスキルアップ、とりまとめノウハウの取得など）。

調査期間終了後、その成果をもとに改善要望をとりまとめ、継続協議会の場で発言するなど活躍いただいている。今後とも、地元の障害者の声を取りまとめるキーマン、まちの改善点や当事者の意見などを適切にとりまとめられる人材として、継続的な協議機関の場で、また、障害者団体のメンバーとして、活躍を期待したい。

今回の取組みがうまく進んだ要因として、以下の理由が考えられる。

これまでの基本構想策定を通じて、基本的な信頼関係が醸成されていた。

参加メンバーが使命感を持って積極的に取り組んだ。

各種技術基準をコンサルタントより解説指導し、現地調査の実践を通じて体感しつつ学ぶことができた。

市側の理解とバックアップがあった。特に市役所内に調査拠点を置いたことは他部署に対しても良い効果があった。

について補足すると、今回のマップ作成のため現地調査の拠点・調査員の作業場所として、市役所内の会議室を利用したが、車椅子利用や下肢不自由な調査員がバリアフリー対応の十分でない市役所の一般トイレを利用している様子を見て、市職員よりトイレへの手摺設置の提案が自発的に行われ、実現した。

このように、今回の取組みは当事者との連携を進めることができたが、問題・課題としては、このような連携を支える制度・しくみとして使いやすいものがないことである。さらに障害者の教育訓練を、実際の業務遂行を通じて図るという制度の趣旨は活かしつつ、専門家の参画、職能と技術力が活かせる運用条件があれば、当事者連携の取組みを支援できるしくみとして利用できる可能性が生じると考える。

(3) 市民との連携は進んだか

当事者との連携が進んだ一方、一般市民の反応はそれほど芳しいとはいいいにくい。シンポジウムについては市広報にて参加者募集を行ったが、これまでも交通バリアフリーの問題に大きな関心を持っている当事者とその関係者が、参加者の中心であった。

しかし、市民活動団体の中にはまちのバリアフリー化に向けて活動を志すものが出てきているなど、さらに連携の裾野が広がる芽が見られる。

その際に課題となるのは、既にある程度、問題・課題を理解し、共通認識を醸成してきた団体と、はじめて交通バリアフリーの考え方を知る市民等とのギャップをどう埋め、ともに協力できる意識を醸成するかである。はじめての市民から出てくるさまざまな意見に対して、考え方の溝を一步一步埋めるところから連携づくりがはじまる。まずは基本的な認識をより多くの市民に広く理解してもらえきつかけや取組み、交流促進が必要とされている。

(4) 今後に向けて

継続的な協議会の設置により、今後の連携のための形がつくられた。協議会は公開が予定されており、誰でも傍聴可となる。

しかし、これは基本形であり、整備事業メニューの進捗確認のため関係事業者が一同に会する場を定期的に持つことは大きな意味があるが、具体化すべき問題・課題によっては個別の検討体制構築が必要となる。

今後の課題としては、移動円滑化基準やガイドラインに沿った整備事業メニューだけではなく、実施の糸口をつかみにくい中長期的な課題も含まれており、その取組みを進めるためには、もう一步踏み込んだ試行錯誤が求められている。

(5) おわりに

最後に、基本構想策定後、積極的な取組みを推進された高槻市建設部の担当各位、マップ作成にあたり尽力いただいた高槻市障害児者団体連絡協議会の各位に改めて謝意を表したい。

参考文献

- 1) 筆者他, 多様な主体の参加・意向把握に基づく高槻市交通バリアフリー基本構想の取り組み, 第26回土木計画学研究発表会(春大会), 2003